

事業の概況

■国内景気は緩やかな回復が続く

当第2四半期連結累計期間（2019年1月1日～2019年6月30日）におけるわが国経済は、個人消費が持ち直し雇用情勢も着実に改善してきている中で一部に弱さも見られましたが、全体としては緩やかな景気回復が続きました。

このような経済状況にあって、米中の通商問題による中国景気減速の懸念や日韓貿易問題の影響に対する懸念から先行きに慎重な姿勢も見られましたが、企業収益は足踏みが見られたものの依然高い水準にあり、設備投資やソフトウェア投資の計画も増加傾向にある中、政府による働き方改革の推進やIT導入支援事業、パソコンの更新需要などにより国内企業のITへの関心も高く、IT投資は底堅く推移しました。

■地域主導の運営体制を深化

以上のような環境において当社グループは、「お客様の目線でソリューションを活かし、信頼に応える」を2019年度のスローガンに掲げ、引き続き地域主導の運営体制の下、それぞれの地域のお客様の特性やニーズに対応すべく関係強化を図ってきました。本年は東京・大阪・名古屋を始めとした全国主要都市にて「ITで開く、働き方改革。」をテーマに実践ソリューションフェア2019を開催し、オフィスの2020年問題^{*}を提起しIT需要の喚起に努めました。また日々の提案活動においては、「オフィスまるごと」の方針の下、当社の提供できる商材やサービスを組み合わせお客様のニーズに沿った付加価値のあるソリューション提案を行うことで、不要な価格競争を避け収益性を損なわないよう努めました。

企業収益は高水準
IT投資は底堅く推移

お客様との関係をさらに強化
付加価値あるソリューション提案

※ オフィスの2020年問題=2019年から2020年に起きるオフィスにおける課題のこと。具体的には蛍光灯や水銀灯の生産終了、働き方改革関連法の施行、消費税増税、Windows 7等のサポート終了、東京オリンピックに向けたサイバー攻撃への対応、政府が推進する企業のBCP策定など

なお、当第2四半期連結累計期間にはWindows 7搭載機の更新や働き方改革への対応について大きなパソコン需要が見込まれることから、メーカーとのコミュニケーションを密にとり、調達に障害が生じないように注意を払ってきました。これら様々な施策により、良好な市場の需要を捉えパソコンの販売台数は前年同期に比べ高い伸びとなりました。

■売上高、営業利益、経常利益、純利益 1～6月として過去最高を更新

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、4,501億54百万円(前年同期比15.5%増)となりました。利益につきましては、営業利益338億80百万円(前年同期比24.7%増)、経常利益347億10百万円(前年同期比24.6%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益235億22百万円(前年同期比25.2%増)となりました。

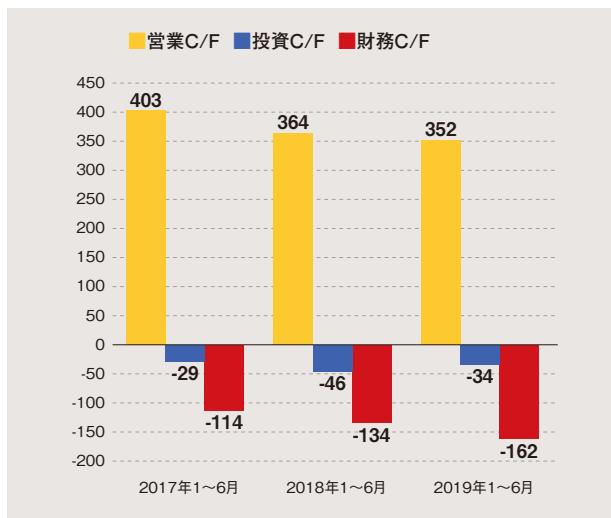
(単位：百万円)

	2018年1～6月	2019年1～6月	
	金額	金額	増減率
売上高	389,863	450,154	+15.5%
営業利益	27,178	33,880	+24.7%
経常利益	27,868	34,710	+24.6%
純利益*	18,791	23,522	+25.2%

※親会社株主に帰属する純利益

■キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、「売上債権の増加額」が大きくなったことなどにより、前年同期に比べ12億31百万円減少し、352億33百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、「ソフトウェアの取得による支出」が減少したことなどにより、前年同期に比べ12億55百万円減少し、34億29百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、「配当金の支払額」が増加したことなどにより、前年同期に比べ27億48百万円増加し、162億17百万円となりました。

四半期別の概況

■売上高の推移

売上高は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)とも二桁増収となり、前年からの増収トレンドを継続しました。

第1四半期(1～3月)売上高は、2,186億81百万円(前年同期比14.4%増)、第2四半期(4～6月)売上高は、2,314億72百万円(前年同期比16.5%増)となりました。

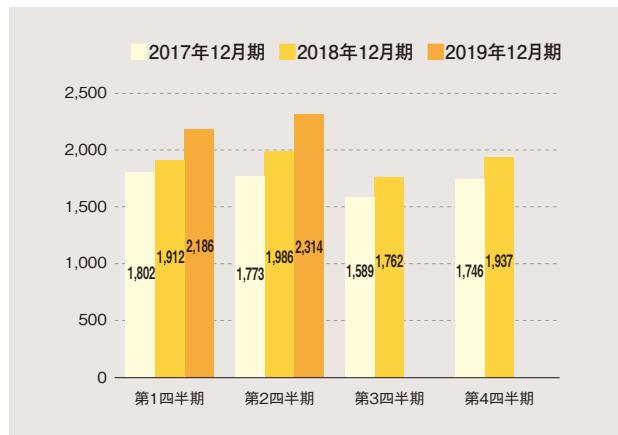
■経常利益の推移

経常利益は、第1四半期(1～3月)、第2四半期(4～6月)ともに、前年第4四半期(10～12月)からの高伸長を継続しました。

第1四半期(1～3月)経常利益は、150億87百万円(前年同期比23.4%増)、第2四半期(4～6月)経常利益は、196億23百万円(前年同期比25.4%増)となりました。

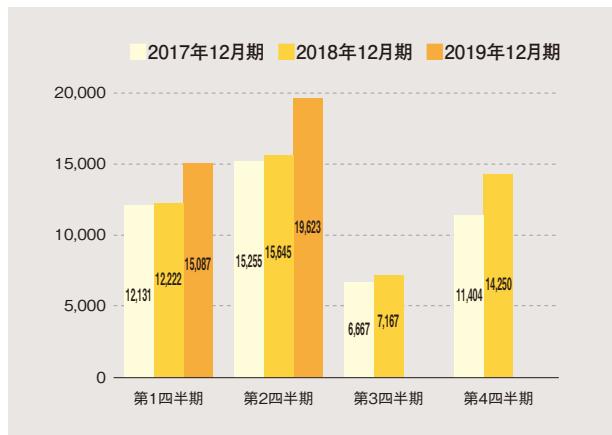
売上高の四半期推移

(単位：億円)



経常利益の四半期推移

(単位：百万円)



事業セグメント別の概況

■ システムインテグレーション事業

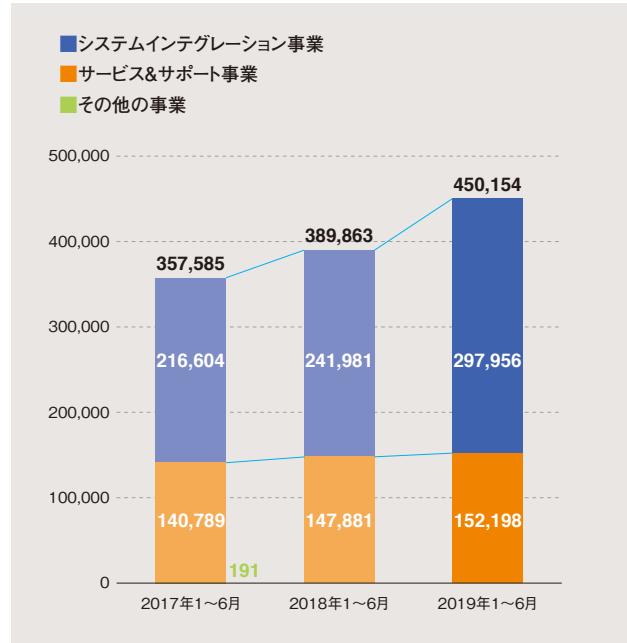
コンサルティングからシステム設計・開発、搬入設置工事、ネットワーク構築まで最適なシステムを提供するシステムインテグレーション事業では、パソコンの販売台数は更新需要や働き方改革への対応のための需要を捉え高い伸びとなりました。加えて消費税増税対応もありパッケージソフトや受託ソフト等も順調に伸び、これらの結果、売上高は2,979億56百万円(前年同期比23.1%増)となりました。

■ サービス&サポート事業

サプライ供給、ハード&ソフト保守、テレフォンサポート、アウトソーシングサービス等により導入システムや企業活動をトータルにサポートするサービス&サポート事業では、オフィスサプライ通信販売事業「たのめーる」の競争力の強化に努め、サポート事業「たよれーる」と合わせて売上高を着実に伸ばし、売上高は1,521億98百万円(前年同期比2.9%増)となりました。

事業セグメント別の売上高推移

(単位:百万円)



注:連結子会社でありました大塚オートサービス株式会社は、連結業績への影響度が低下したため、2018年より連結から除外されております。これに伴い、「その他の事業」区分は実績が無くなったため、2018年より記載しておりません。